

注射薬・医療材料認識システム各画面イメージ

①

②

③

④

① 麻酔記録システム画面

② 投与量入力画面

③ 麻酔科医側 注射薬認識システム画面

④ 看護師側 注射薬・医療材料認識システム画面

麻酔科医側と看護師側の画面はタブで切り替えが可能。

注射薬認識システム画面でのリスク管理

【イメージ図】

メッセージ画面

【添付文書イメージ図】

【禁忌イメージ図】

特定の薬品を読み取った時に注意を促すメッセージを表示させる。(当社薬品マスターへメッセージ及び特定薬品フラグを登録する。)

外付けバーコードリーダー

上位システムより患者情報を取得。または手入力等。

麻酔記録システム画面 (タッチパネル)

11社の測定機器 (生体モニター等) と接続可能 ※詳細はお問い合わせ下さい。

注射薬・医療材料認識システム画面 (タッチパネル)

カラー又はモノクロラベル出力機能

ハンディターミナル (看護師側で使用)

PCハード

キャスター

電子麻酔記録付き注射薬認識システムの登録方法

STEP ① 準備

① 注射薬認識システムを起動すると麻酔記録システムも起動する。

② 薬品をシリンジに吸う。

③ 薬品の空瓶を注射薬認識装置に投入する。

④ 出力されたラベルをシリンジに貼付する。

※機械へ投入できない薬品は外付けバーコードリーダーで読み取る。

STEP ② 導入

① 患者のリストバンドを読むと電子カルテから患者情報を自動取得し、麻酔記録システムが自動的に開始される。

② 患者への導入時に外付けバーコードリーダーでシリンジラベルを読む、又は薬品名をクリックする。

③ 投与量入力画面が自動的に表示される。

④ 患者へ薬品を導入後、投与量入力画面へ量と時間を入力し、「実行」をクリック。

⑤ 自動的に麻酔記録システムへプロットされる。

STEP ③ 維持・覚醒

① 薬品を開封し機械へ投入後、自動出力されたラベルをシリンジに貼付する。(以降は導入の②～⑤の流れと同じ)

STEP ④ 患者退室

① 患者退室後、麻酔記録と薬品カウントデータを電子カルテへ送信する。

OPTION

カラーラベル出力

ラベルプリンターを用いて、**日本麻酔科学会が推奨する使用に準じた**シリンジ用ラベルの出力が可能。ラベルには溶質名、溶媒名、調製日時 (薬品のバーコードを読み取った日時)、希釈率、院内薬品コードのバーコードが印字される。

【ラベルイメージ図】

システム構成図とデータの流れ【各オペ室に1台ずつ設置】

電子カルテ

医師請求データ

患者情報

※通信費は別途発生致します。

サーバー

・麻酔記録(PDF)

・麻酔科医側 使用データ

・看護師・臨床工学技士側 薬剤・医療材料使用データ

・看護師・臨床工学技士側 薬剤・医療材料使用データ

・麻酔科医側 使用データ

・麻酔記録(PDF)

モノクロプリンター

補充表 (各オペ室毎、全薬品毎出力可能)

- 患者毎薬品使用一覧表
- 患者別特定薬品一覧表 (筋弛緩剤等の毒薬)
- 患者別特定薬品一覧表 (血液分画製剤)
- 患者別特定薬品一覧表 (麻薬用)
- 麻酔診療録

オペ室 1

【麻酔科医側】電子麻酔記録付き注射薬認識システム

電子麻酔記録付き注射薬認識システムは各オペ室内に設置。(機械が不要の場合はPCのみ導入も可能)

外付バーコードリーダー

ラベルプリンター

各オペ室の生体モニターと麻酔記録システムを接続

無線ルーター

オペ室 2

【看護師・臨床工学技士側】看護師用ハンディターミナル

注射薬・医療材料認識システムを搭載したハンディターミナル。IMRSヘデータが自動送信・蓄積される。

オペ室 1 と同様

オペ室 3...

オペ室 4...